



A09



グローブスクール間の交流

日本各地の学校がグローブに参加していることから、グローブスクール間で交流を深めることができるのも大きなメリットです。複数の学校と一緒に活動し、情報交換や交流を深めることができます。また、グローブスクール以外の地域の学校とも連携することで、調査や環境活動を広げることができます。



流域における連携活動

由良川の河口と中流域に位置する二つのグローブスクール：京都府立海洋高等学校（河口）・京都府立綾部高等学校（中流域）では、連携をとりながら交流会を開いています。お互いに川や海に関する学習や活動、情報交換を行うとともに、生徒・先生同士の交流も深めることができます。

春は綾部高校が中心となり、由良川クリーン作戦を実施。秋は海洋学校が中心となり、海の学習を実施。



上：由良川クリーン作戦の様子
下：マイクロプラスチック調査



地域の学校との交流授業

●北海道蘭越高等学校

川をテーマに、地域の小中学校と水質調査を通じた交流授業を実施しています。授業は、河川事業者とも連携し、高校生が講師となり、行っています。ライフジャケットの着用方法やpHの測定方法、水生昆虫の採集方法など水に関する調査を行うとともに、学校間、生徒同士の交流を図っています。高校生が小中学生を相手に授業を行うため、事前にしっかり勉強して取り組むなど、生徒のモチベーションの向上にもつながっています。



交流授業の様子

●京都府立綾部高等学校

地域の保育園児、小中学生に「環境出前授業」を実施し、河川環境に関する啓発活動に取り組んでいます。子どもたちが理解しやすいようにクイズや環境劇を取り入れ、由良川の概要や水質、ゴミについて解説する他、水生生物の紹介や顕微鏡を用いた観察も実施しています。学生たちは、子どもたちの感想や反応を受けて、やりがいを感じるとともに多くの人に伝えることの大切さを実感しています。



環境出前授業の様子

●京都府立海洋高等学校

地域の小・中学生への学習支援として、「海ごみ教室」を開催しています。海洋プラスチックごみ問題について、来校する小・中学生に対して、高校生が学んだことや体験したことを元に、1時間の授業を立案し、実施します。寸劇や紙芝居、砂浜でのアクティビティ等を通して、海洋ごみの発生源や問題点などを、楽しみながら学んでもらう取組です。生徒同士で工夫して次の海ごみ教室に活かしていきます。海洋ごみ問題は、年齢に応じた学び方ができるため、よい学習教材になっています。



海ごみ教室の様子